

湛水土中(カルパー)直播栽培特報 第1号

令和5年4月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

<目指せ！うるち玄米1等米比率90%以上！！>

播種～苗立ちまでのポイント（コシヒカリを中心に）

- ① 播種深度は5～10mmとし、60本/m²（18本/m）程度の適正苗立本数を確保
- ② 土壌条件に応じた**基肥基準量の厳守**（窒素成分で移植栽培より1割程度減肥）
- ③ 播種後の**田干しの実施**（苗立ちの安定化）

1 ほ場準備

- ・ほ場の均平が悪いと播種ムラや出芽ムラが発生し、生育不揃いの原因となります。
耕起から砕土・整地の作業は、移植よりも丁寧に行いましょう。
- ・代かきは少なめの水で行い、稲株や雑草をすき込みましょう。**ねり過ぎに注意(表1)。**

表1 代かき時期の目安

土質	代かきの目安
砂壤土	播種2～3日前
埴壤土	播種4～5日前

2 基肥

- ・基肥は、窒素成分で**移植栽培の1割程度減肥**しましょう(表2)。
- ・**大豆跡田**は、倒伏の危険性が高いので、コシヒカリの直播はできるだけ避けましょう。やむを得ず行う場合は**分施肥体系**としましょう。
- ・てんこもりを直播する場合、基肥量はコシヒカリ(直播)より窒素成分で1kg程度増量しましょう。

表2 施肥基準(コシヒカリ)

土質	直播用基肥一発 (LPss直播コシヒカリ)		分施:側条施肥 (基肥 206)	
	施用量 (kg/10a)	N成分 (kg/10a)	施用量 (kg/10a)	N成分 (kg/10a)
砂壤土～ 砂質浅耕土	35	7.4	30	3.5
壤土	30	6.3	25	3.0

3 播種

- ・播種適期は、**4月25日～5月10日**です。
- ・播種前の落水は、播種作業が午前中の場合は前日の夕方に、午後の場合は当日の早朝を目安とし、土壌条件や気象条件に応じて行いましょう。
- ・作業中は**確実に覆土(5～10mmの播種深度を確保)**されていることを確認し、**種子や肥料の落下量(各ホッパー内の種子や肥料が均等に減っているか等)をチェック**しましょう(表3)。

表3 播種作業の目安

播種量		苗立本数 (播種後20日後の目標)
乾粒重量	播種粒数	
2.5～3.0kg/10a	28～33粒/m	12～25本/m

4 播種後の水管理

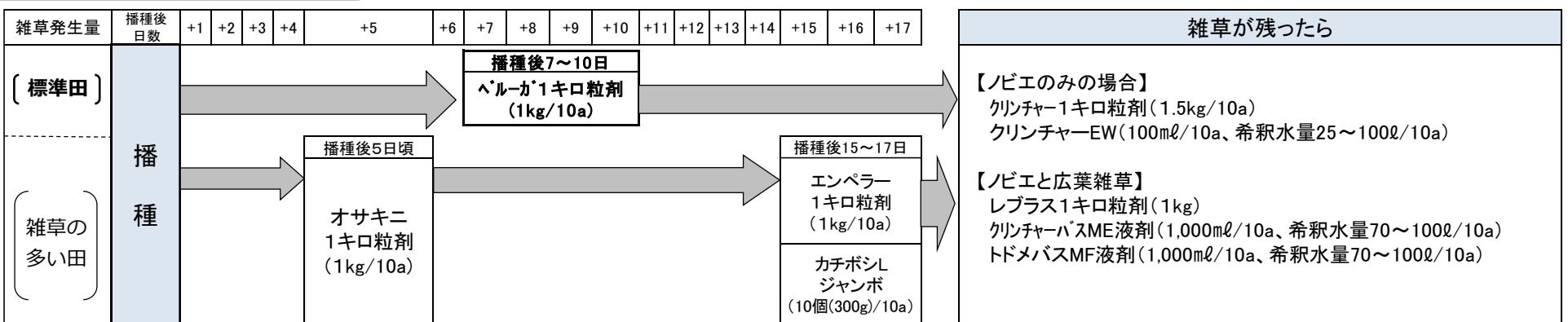
- ・出芽揃い(播種後5～7日程度)まで、土壌表面に亀裂が入る程度の**田干し**を行いましょう。ただし、強い降雨や強い風が吹く場合には入水してください。
- ・播種後、覆土が不十分で鳥害が懸念される場合は、田干し前に半日程度湛水しましょう。
- ・田干し後は、**浅水管理**を徹底し、初期分けつ確保に努めましょう。



足を踏み入れ、2～3cm程度しか沈まなくなった頃が入水時期です。

5 除草剤の散布

※散布後5日間は確実に湛水状態を維持し、散布後7日間は止水管理(落水しない)!



- ・気温が高いと散布適期が更に狭くなるため、散布が遅れないようにイネとノビエの葉齢を確認しましょう。
- ・田面の亀裂が大きい場合は、入水後、減水が落ち着いてから散布しましょう。

6 鳥害対策

- カモ ほ場内に糸やテープ等を張り侵入を防ぎましょう。飛来した場合は落水しましょう。
- スズメ 播種後、種籾が露出して見える場合は一度入水し覆土しましょう。飛来した場合は速やかに入水しましょう。
- カラス カラスの飛来が懸念されるほ場では、播種後、ほ場内や周辺に水系を張り、飛来防止に努めましょう。

○春の農作業安全確認運動「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」(3月1日～5月31日)

○STOP！農業機械の盗難被害!! ～営農に不可欠な機械を守りましょう!!～